



学生に心身ともに健やかに育ってほしいという願いを込めた奉仕活動であり、比較的小規模なクラブをホストとして各グループ内で応援していただくことを目的として、また保護者のロータリーの認知度を上げるため、ひいては会員の増強に繋げる奉仕活動であります。今後も継続事業として検討して頂ければと思います。

11月16日ホテルブエナビスタにて、IM・会員セミナーを開催しました。皆様にご参集頂き心より感謝申し上げます。会員セミナーでは、「これからのロータリークラブを共に考えてみましょう」というテーマで折井直前ガバナーに講演していただきました。地域社会と経済環境が激しく変化し多様化している現状の中で、ロータリーはどのように変わりつつあるのか、そして私たちのロータリー活動はこれからどうしていくべきかなどについて多くの課題を再認識でき意義深いものとなったのではないのでしょうか。親睦懇親会は、楽団ケ・セラの演奏からはじまりました。皆様の親睦がはかられ、友情が深まったことでしょう。楽団ケ・セラは、松本市を拠点に、障がいを持つ若者たちが音楽活動を通じて社会的自立を目指し結成された楽団であり、DEIの考えを体現した団体です。

さて地区内では、会員の減少による20名以下でのクラブ活動の実施、会員の高齢化と退会、若年・女性会員の入会が少ない、入会3年までの退会率約30%であるなど諸課題があります。このような状況で今年度の活動指針と対策が計画され実施されていますが、地区、委員会の連携と強化、クラブ及びグループの連携と強化が最重要課題であります。DEI研究会が新設され活動を行っておりますし、新会員セミナーの開催もされております。また、マイロータリーの登録推進など地区でのデジタル化が図られています。このような状況において中信第一グループの会員は、2024年12月末現在149名となり、2024年7月1日現在147名から2名の純増となっております。地区目標である5%にはまだ未達ですが、皆様のご協力に感謝申し上げます。

最後に、下半期地区の事業がまだございます。どうか地区の行事予定表を再度確認して頂き、ご参加とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【浅間温泉ホテルの里づくりの会へ協力金の贈呈】
副会長 久保村 能久様 ご挨拶



本日はありがとうございます。皆様のご協力ですべて迎えました。現在6月末から7月上旬にほたるの里祭りを実施して

おり、シーズン中の来場者も増えました。近年、水路の水漏れが多くなり大改修も予定しています。さらに充実した環境に整えていきたいと思っております。

【ロータリー創立記念例会～地域住民の業績表彰】



**◇飯島会長より感謝状と金一封の贈呈
松本少年刑務所母の会 会長近藤美枝子様（推薦：飯島会長）**

***推薦の理由**
少年刑務所母の会は、長年にわたり、非行や犯罪に関わった少年たちの更生と社会復帰を支援する活動を続けてこられました。彼らに寄り添い、社会とのつながりを取り戻すための支援を惜しまない姿勢は、地域社会における更生支援の模範となるものです。同会の活動の一環として、受刑者との交流や文通プログラム、音楽を通じた心の交流など、多様な支援が行われています。特に、少年たちが「人を傷つけるのではなく、感動や温かさを届ける人になろう」と決意を新たにすきっかけとなるような活動は、彼らの更生意欲を高める大きな役割を果たしています。以上の理由により、少年刑務所母の会の長年にわたる功績を称え、地域住民の功績表彰にふさわしい団体として推薦いたします。

《2025.2.22 市民タイムス掲載》

少年刑務所母の会表彰
松本東RC 入所者を支え70年

松本東RCは21日、民に対する業績表彰として、松本少年刑務所母の会を表彰した。松本東RCの飯島会長と、松本市本庄1丁のホテルブエナビスタで行った例会で、地域社会への功績を認め、母の会の近藤美枝子会長に表彰状と贈呈した。

松本東RCは21日、民に対する業績表彰として、松本少年刑務所母の会を表彰した。松本東RCの飯島会長と、松本市本庄1丁のホテルブエナビスタで行った例会で、地域社会への功績を認め、母の会の近藤美枝子会長に表彰状と贈呈した。

ウオーカブルなまち
昨年未だに腹部に鈍痛を感じ、体調不良が続いたため内科を受診したところ生活習慣病の脂肪肝と診断された。医師から養生活の見直しとアルコールを控えること、1日30分以上のウォーキングで改善すると聞き、昼休みまで使って松本市の中心市街地を歩いている。

この1カ月間、せせと歩き続けたことで体重が減り、肝臓値は正常値に下がった。果たしてウオーカブルなまちが可能なのか。歩くことが健康にいいことが異なり、中心市街地を歩いてとほ聞かないようだった。(田)

こそ業しめを思った。元来、城下町として設計されたことも影響しているかもしれない。市は来年度、中心市街地の再設計に具体的な着手する方針で、3月末に諮問機関が将来像をまとめた提言をする。中間発表では人が歩きやすい「ウオーカブルなまち」の方向性が示され、車の流入を抑制する案もある。

の更生と社会復帰を支援する活動をしている」と功績をたたえた。近藤会長は「入所者が約500人、入所者に健全な社会で、入所者の文通など復帰してもらいたい」とどの生活相談をしたと応援している」と語り、会費を活用して教している。

材の寄贈をしたりして。例会では、浅間温泉の宿舎を借りて、ホテルの里づくりの会に協力を贈った。(小口浩一)

【点鐘 13:30】

柴田ガバナー補佐

